



イラスト・すみのけいし

はじめに

はじめまして、仲野徹です。と言っても、ほとんど誰もご存じないだろうと思います。大阪大学で、全国的にも珍しい「お笑い系研究者」として、生命科学の研究をしています。が、今回の連載は、それとはまったく関係なく、一人の（たぶん）おもしろい大阪人として、対談をさせてもらうことになりました。

生まれて六十年近く、ドイツに滞在した二年ほどを除いて、「ダイエー発祥の地」と枕詞がつく、大阪市内きつての下町、千林というところにずっと住んできました。それでも、大阪のこととなると、知っているようで知らないものです。そこで、ディープな大阪をご存じの方たちに大阪のことをおろがいでいこうということになりました。この連載を通じて、吉本や「こなもん」以外のいろいろな大阪を知っていただければ幸いです。

第一回は、日本近世史が専門の歴史学者・高島幸次先生にご登場願いました。という、難しそうに聞こえるかもしれませんが、対談をお読みいただけたら

わかりますように、むちゃくちゃおもしろいおっちゃんです。ものすごく説得力のあるお話をされるのですが、説得力がありすぎて、ひよっとしたら騙されてるのではないかと思わせる、という特殊能力の持ち主でもあります。

今回は大阪と大阪人をめぐるお話です。ただ、高島先生の特長能力を一回で終わらせるのはもったいなさすぎますので、この対談連載の指南役として、三、四回に一度は登場していただく予定にしています。では、笑おうという心づもりをしてから、対談をお楽しみください！

行き当たりばったり企画、始動!

編集部 本日はお忙しいところ、仲野先生の対談連載のためにご足労いただき、ありがとうございます。

高島 僕、今日の趣旨がまったくわかってないんですけど……。

編集部 今度、『望星』で三カ月にいっぺんの対談連載が三つ始まることになっていまして、そのうちのひとつを仲野先生にお願いしている次第です。

仲野 ほかは、坂崎重盛さんと南伸坊さん、池内紀さんと川本三郎さんでしたっけ？ それに対抗して、私なんぞがノコノコと……。

高島 そのなかじゃ、色もんですね。

仲野 自分で言うのもなんですが、色もんというかわ、レベルが低そうとか。まあ、それはいいとして、テーマは大阪についてで、タイトルを見ればわかりますように、中沢新一さんの『大阪アースダイバー』の向こうを張っていこうという志の高いものであります。で、とりあえずは、行き当たりばったり感満載に、どんな人たちに話を聞いていったらいいのかを、ごく一部では大阪のことをなんでも知っておられると噂されている高島センセに教えてもらおうと思います。それから、第一回目のテーマとしては、大阪って特殊かどうかつちゅう話をできたらなあ。

高島 話聞く人なら、何人かはすぐに思いつきます。一人は、大阪城天守閣の館長をやっている北川央さん。私と同じ歴史の研究者で、秀吉の時代の大坂城の石垣をもう一回再現しようとか、いろんなことやってはる人で、面白いと思います。

仲野 大阪城は、大阪の特殊性にやっぱり関係あるん